

ノンcomedジェニックテスト



ノンcomedジェニックテスト(comed形成能試験)とは・・・

comedはにきびができる第一段階の状態、これに炎症が加わるとにきびになります。したがって、comedの形成をおさえればにきびを防ぐことにつながりますので、このcomed形成の誘発について調べるために用いられる試験が、comed形成能試験です。(参考：日本化粧品技術者会 化粧品用語集)

ヒト試験の場合には皮脂腺の多い背中を使います。サンプルを塗布した後、背中の毛包内部を採取し、スライドグラスに付着させて観察し評価・判定します。

試験方法については、各試験機関によって異なりますので、目的に応じて実施されることをお勧めいたします。

試験概要 (例)

試験方法：上背部の中央部分に毛包開口部がある事を確認した健常な男女を選定し、顕微鏡検査の結果から被験者を設定します。

週3回、パッチを被験者の背部の中央部分に貼付し、閉塞型テープで皮膚に貼付し、計6週間で完了とします。

評価方法：各試験部位における毛包と微小面皰の平均数を算出し、以下の基準に基づき、面皰形成スコアを算出します。

面皰形成スコア：

0 = 微小面皰や貯留角化が全く見られない、全て正常な毛包開口。

1 = 25%以上の毛包において微小面皰が見られる。

2 = 50%以上の毛包においてやや大きめの微小面皰が見られる。

3 = 75%以上の毛包において大きな硬く凝縮した球状の微小面皰が見られる。

試験物質による面皰活性の変化量を決定するため、比率の数値を求め、求めた値から、処置による面皰活性化度の変化率 (%) を決定します。